

# 幼児期からの運動習慣の形成と運動機能の向上に向けた取組の普及について

〈本質問は令和5年6月の一般質問です。〉



## 質問

幼児期からの運動習慣の形成と運動機能の向上に向け「運動・スポーツ好きな幼児育成プログラム展開事業」の普及拡大のため、今後どのように取組まれるのかご所見をお伺いします。

## 答弁

県内14の幼稚園等をモデル園に選定し、令和4年度から3年間、日常的に鬼ごっこやボールの的当て、大縄跳びなどの運動遊びを実践していただく取組みを進めております。

初年度の実績として、走る速さの飛躍的な向上や、投げる、跳ぶといった運動能力の向上も確認できました。今後は効果を検証しながら、県内全域への普及拡大に向けた取組みを進めてまいります。

具体的には第一に、プログラムの内容や効果を解りやすく紹介するリーフレットや動画を毎年作成し、県内全域の市町村の担当部署や園及び保護者に対して、積極的にPRしてまいります。

第二に、モデル園で実施している大学教員による実技指導を公開講座として、モデル園以外の園でもノウハウを習得できる機会を提供してまいります。

第三に、モデル園の取組み終了後、3年間の成果を踏まえ、効果的な運動遊びの実例や指導方法のポイントなどを教材として取りまとめ、園や小学校に対して広く活用を促してまいります。

**安心してください。幼児期の適切な運動指導が丈夫でバランスの取れた体を育み、更に、身体面だけでなく、精神面の非認知能力(心と社会性)の向上も図ることができます。**

## これまでのスポーツを通じて子どもたちへ支援

### 1. つよいぞぎふっこプロジェクト

県スポーツ協会がスポーツ庁の『運動遊び定着のための官民連携推進プロジェクト』を活用して、子どもが楽しみながら体を動かせる運動遊びを支援しています。

### 2. GIFUNITE(ギフユナイト)設立

令和4年4月より岐阜県内9種目13プロスポーツチームの連携組織『GIFUNITE』を立ち上げ、FC岐阜や岐阜スーパース等をはじめとしたトップチーム選手による、運動遊びを通じて子どもたちが自発的に運動やスポーツを楽しむきっかけづくりを効果的に推進しています。

### 3. 輝け未来のアスリート応援プロジェクト

県内の最高峰のスポーツ施設であります、長良川球場や長良川競技場を無償で小中高生に貸出、将来もっと大きな大会でこの会場に戻ってきたいと子どもたちの夢を応援するプロジェクトです。

### 4. スポーツ運動好きな幼児育成プロジェクト

県内5圏域14の幼稚園をモデルに岐阜大学等の県内5大学の教員の協力を得て、幼稚園教諭や保育士へ運動遊びの実技指導を行い、園の活動の中に運動遊びを取り入れ運動能力測定により効果を検証します。

## 議会での提案により実施・継続・発展した事業 子どもたちは心も体も元気に成長します

- 令和6年度スポーツ運動好きな幼児育成プロジェクトを継続しました。(予算600万円)
- 県内大学教員等による実技指導に加えて、園の先生が幼児に対して運動遊びを適切に実践していくため、必要な助言を行う『巡回指導』を新たに実施しました。
- 保護者への普及や理解促進を図り「フィジカルリテラシー」を高めるために、運動遊びの重要性を学ぶ講習会を新たに開催しました。
- 新たに山県市を含む県内4市において、モデル園以外の園の先生が、モデル園の取組みの様子を参観しノウハウを習得いただける「公開講座」を新たに開催しました。
- 令和5年度の取組みの効果検証を踏まえた普及動画・リーフレットを作成しており完成した後は広く県内に周知し、取組みの普及・拡大に努めていきます。

幼児期の適切な運動指導は  
下記のQRからご覧ください▶▶▶



岐阜県議会議員 恩田佳幸 事務所

〒501-2104 岐阜県山県市東深瀬846-1 TEL0581-32-9597 FAX0581-32-9598

HP 恩田佳幸 検索



# Potential

We are in the age of seeking mental happiness, not only with materialistic, quantitative wealth, but also spiritual, qualitative values.

活動  
報告書  
Vol. 45

挑戦せずして  
未来が開けますか。

安心も自立も挑戦の先にある



# 恩田佳幸

# 幼児期からの運動習慣の形成と運動機能の向上に向けた取組の普及について

子育て支援は新たなフェイズへ  
(段階)  
 サービスの無償化もサービスの質の向上も  
 エビデンスに基づく適切な運動指導が運動能力の向上に繋がる  
(データ・根拠)  
 幼児期の集団での運動遊びが非認知能力を養う



どの地域で生まれる子どもたちでも、  
 どの様な環境で育つ子どもたちでも  
 明るい未来を自らの努力で  
 実現できる社会を創ります。

子どもたちの運動不足や体力低下が大きな課題となっています。特に2020年以降の新型コロナウイルス感染症の影響で運動不足が拡大し、その懸念も大きくなりました。

国が1964年から実施している6歳から19歳の体力・運動能力調査によると、子どもの体力は1985年頃をピークに2000年頃まで低下を続け、その後若干の改善はありましたが、2019年以降は再び低下しています。

## 岐阜県の現状

スポーツ庁が令和4年12月23日に発表した2022年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査(全国体力テスト)によると、小学校5年生で全国平均の結果を下回っていることが確認されました。

## 5歳未満の幼児の運動能力も低下傾向

3歳児と5歳児を対象に運動能力を比較した研究では、2007年の5歳児は1985年の3歳児と同じくらいの運動能力に留まっています。

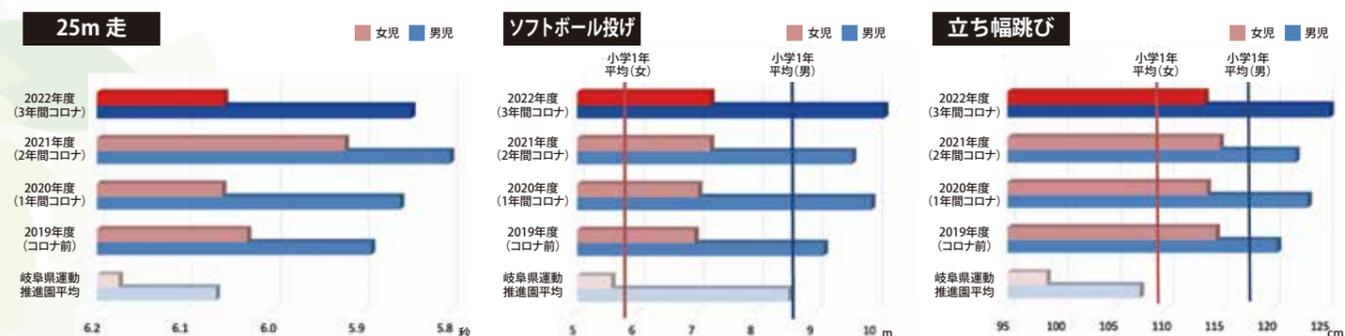
## なぜ、子どもの運動不足・体力低下が問題なのか

運動不足は子どもの成長面で大きな悪影響を与えます。運動不足では発育発達期の運動機能が発達しないだけでなく、適切な運動や幼いときの集団での活発な遊びが『子どもの心と社会性を育みます。』

つまり、今の子どもは非認知能力(心と社会性)も養われづらい環境です。

## 県内の幼稚園独自の取組みも確かな成果が確認されています

幼稚園にて220人を対象とした、年長児の体力をコロナ前とコロナ後で3年間を比較した結果です。コロナ禍で行動制限がある中でも、適切な運動指導で『走る、跳ぶ、投げる』の運動能力や運動神経の結果はコロナ前よりも向上しています。



引用元：県内幼稚園の卒園児保護者様宛文書からの抜粋

## 適切な運動指導が子どもたちの成長に繋がる。『スポーツ運動好きな幼児育成プログラム』による確かな成果

プログラムでは県内5大学の教員のご協力を頂き、幼稚園教諭や保育士へ運動遊びの実技指導を行い、園の活動の中に運動遊びを取り入れると共に、運動能力測定により、効果を検証します。

プログラム開始から3ヶ月間で3歳児383名の体力テストの変化を検証した結果『25m走』、『ソフトボール投げ』、『立ち幅跳び』のいずれの項目も幼児期の3ヶ月間の平均的な伸び量を加味しても成長が顕著です。

**25m 走** 男子 8.28 秒→7.81 秒 女子 8.46 秒→8.01 秒 **ソフトボール投げ** 男子 2.70m→3.31m 女子 2.31m→2.65m  
**立ち幅跳び** 男子 76.84cm→80.50cm 女子 70.66cm→75.38cm

引用元：岐阜県HP ※ 令和5年6月一般質問現在の数値

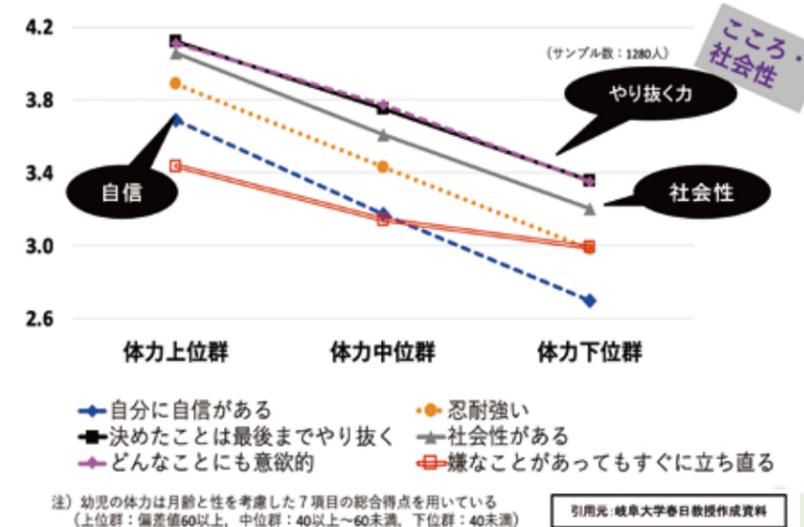
## 安心してください 運動遊びは体と心・社会性を同時に育みます

### 幼児の体力レベル別の非認知能力の特性 ～体力上位群は非認知能力が高い～

【分析の方法と結果の見方】

この分析は幼児の非認知能力(心の成長や社会性の成長度合い)と体力の関係性を分析しています。サンプル数は1280名とサンプル数からも信頼性の高い結果です。

調査対象は年長児で、クラス担任と保育者にそれぞれの子どもの相対的な評価(自分に自信があるか、決めたことは最後までやり抜くか、どんなことにも意欲的か、忍耐強いかな、社会性があるか、嫌なことがあってもすぐに立ち直れるか)を5段階(5点:大変当てはまる、4点:やや当てはまる、3点:どちらとも言えない、2点:やや当てはまらない、1点:全く当てはまらない)で評価してもらいました。その時、おおよそ平均的なレベルを3点として評価してもらいました。



注) 幼児の体力は月齢と性を考慮した7項目の総合得点を用いている(上位群:偏差値60以上, 中位群:40以上~60未満, 下位群:40未満)

引用元:岐阜大学春日教授作成資料

年長児の体力テストの7項目の総合評価点(前述と同様)の高い上位25%を体力上位群、低い25%を体力下位群、真ん中50%を体力中位群にグループ分け、総合評価点は男女別および月齢別(4-6月生まれ、7-9月生まれ、10-12月生まれ、1-3月生まれの4グループ)に偏差値を算出したため、極力、性と月齢の影響を排除しています。

上記の図は、体力の3群別に各非認知能力の評価得点について平均値を示したものです。分析結果から今回、担任や保育者に評価してもらった全ての非認知能力は体力の高い子ほど、高いことが窺えました。

つまり、よく遊び活発に過ごしている子ほど、非認知能力の発達も早いことがしめされており、運動遊びは単に体力の向上だけでなく、子どもの心や社会性の発達にも寄与していることを示しています。

## 年長時の運動能力の高低が小学校6年生の段階で影響を与える

### 年長×小学6年 (同一被検者120名)



注) 総合体力:8項目の平均Tスコア(小6)と7項目の平均Tスコア(年長)、投げ力はソフトボール投げ、跳力は立ち幅跳び、走力は50m走(小6)と25m走(年長)の小6時と年長児のピアソンの積率相関係数を示している

引用元:岐阜大学春日教授作成資料

春日:2015年「幼児の運動能力に関する縦断的な発達評価」体育の科学 第65巻 第4号、290-294

【分析の方法と結果の見方】

これは同一児を年長の時と小学6年生の時に計測した基礎的運動能力(走る、跳ぶ、投げる)のデータの相関係数を示しています。

相関係数(数値)が大きいほど年長の時と小学6年の時の関連が強く、幼児期の影響が強いことを意味します。幼児期に能力が高い子は小学6年になっても高い、逆に幼児期に能力が低いと小6でも低いことを示しています(トラッキング:持ち越し効果)。活発な生活リズムの定着や運動有能感の効果です。